

わだちの轍

Vol 22

轍【わだち】

車が通ったあとに残る輪の跡という意味から、「先人たちが築いてきたものを大切にしながら、未来へとつないでいく」という思いを込めてつけました。

カテゴリーの見方

- Topics / 最新の出来事
- People / 障害者の暮らしづくりを紹介
- Work / 福祉で頑張る人たち
- Art / 障害者の光る感性
- Message / 支援者からのメッセージ
- Report / 取り組み報告

発行：社会福祉法人 高知県知的障害者育成会 〒780-0028 高知県南国市陣山字弥市 531-1 TEL088-855-3717 FAX088-855-6181

発行責任者：秋友英稔(社会福祉法人 高知県知的障害者育成会) 編集責任者：濱田明(社会福祉法人 高知県知的障害者育成会)

印刷：川北印刷株式会社



Report

第21回 高知県知的障害者育成会職員研修会

今回の研修会は、数年ぶりの対面形式で、「仕事の魅力を見つめ直す！～今こそ輪になろう～」をテーマに、様々な分野で活躍される講師の方々をお招きしての開催となりました。

午前の部では、井上石灰工業株式会社・井上ワイナリー株式会社 代表取締役 井上孝志様より、「ワイン造りを通して目指すこと」と題し、ご講演頂きました。

自社の石灰商品を生かし、未経験でありながら、新たにワイン造りへ挑戦されたお話からは、夢を持つこと、そして実際に行動を起こすことの大切さを学ばせて頂きました。

また、会社だけに留まらず、若い世代の目が地元に向くよう、地元愛を育てようと学校と連携をしたり、農業人口の減少や耕作放棄地の活用に着目し、農福連携にて雇用を生み出し、地域の活性化を



井上 孝志様

図る等、地元の将来をも考えて取り組まれている利他の精神には、異業種でありながら福祉に通ずるものがあると感じます。

何のために仕事をするのか？—それは人の役に立つため、それが仕事の大原則と語る井上様。ワイン造りを通して広がった輪のように、私たち福祉の現場でも、職種や立場を越え、それぞれが連携しながら、利用者さんを支えていくチームとして邁進していけたらと思います。



地域活動支援センター「南国」 有澤 智可

午後からは、かがみの育成園・後藤課長の発表、香南市市議会議員・林道夫様にご講演いただきました。

後藤課長の発表では、「私の仕事観」と題してお話をいただきました。これまで業務に携わる中で、保護者との関り、しんどい時に支えてくれた上司の存在など、人とのつながりや一人一人の利用者さんと向き合うことが大切であるとお話がありました。また、趣味の山登りでは、なにを持っていくのか、取捨選択することから、仕事においても自分の行動が自分へ返ってくる、責任を持つことを学んだとのことでした。

林様のご講演では、「あせらず、あきらめず、ポレポレ」と題し、お話をいただきました。林様は網膜色素変性症により、視力を失いながらも、マッサージ・はり治療院「手結・源気堂」の経営の傍ら、市議会議員、高知県網膜色素変性症



林 道夫様

協会、NPO 法人高知県難病団体連絡協議会などの、様々な役職に精力的にお務めになられています。また、趣味の山登りやマラソンなど、たくさんのことにチャレンジされてきました。こんなにもたくさんの経験をされてきた林様は、自分の限界を決めず、「できない」を「できる」に言い換え、諦めずに可能性を探されてきました。

今回の研修では、講師の皆様の仕事への向き合い方や仕事の魅力の引き出し方など、多くの学びがある研修会となりました。私たち職員が仕事の魅力をたくさん発見し、幸せを感じることで、利用者さんにも、一度きりの人生を、楽しく、幸せに過ごしていただけるようになるのではないかと感じます。



後藤課長

地域活動支援センター「香美」 平田 輝

Topics

ピザを作りました ～ゆうあい交流会～

ゆうあい交流会は、職場で働いている登録者の皆さんが職場に定着できるよう、日常生活の中で役に立つことを一緒に学んだり、おしゃべりをする機会をもつ、在職者交流会です。

ここ数年、コロナ禍で開催を中止していましたが、昨年度末から交流会を再開し、今回は久しぶりに『バランスのよい食事とおしゃべりでリフレッシュしましょう』と食をテーマに、参加者でピザ作りに挑戦しました。

ピザは生地から手作りする為、薄力粉やベーキングパウダー、サラダ油などをボールに入れてまとめる所からスタート。「なかなかうまくいかんねえ」と皆さん悪戦苦闘しながら、生地をコネコネ。何とかまとまった生地をねかせた後、麺棒や手で生地を円形に伸ばすのですが、これまた「丸い形にならん」「思い通りの形になってくれん」と言いながら、皆さんで協力しあっていました。伸ばした生地にピザソースを塗り、ブロッコリーや



トマト、コーン、ウインナーをのせて、最後にチーズをたっぷりかけて、フライパンで焼いて完成。一緒に作ったコンソメスープと合わせていただきました。

1人1枚、直径23cmの大きなピザに「おいしいねえ」と皆さん口いっぱい頬張りながら、最後は「お腹いっぱい」や「まだ食べれるき」など楽しそうに話している姿も見られました。

これからも、登録者の皆さんが楽しみながら交流できる企画を開催していく予定です。



障害者就業・生活支援センター
「ゆうあい」 公文 智恵

Report

花に魅せられて

西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社のお仕事をお手伝いさせていただき始めて、15年ほどになります。

最初は、国土交通省の仕事でロードボランティア団体に花苗の提供を行わせていただきました。仕事を通じて、西日本高速道路エン



ニアリング四国株式会社様とご縁ができて、ゆとりすとパークおおとよの花壇管理を行っています。取り組み始めた頃は、一晩で鹿に花苗を食べられてしまったり、雑草に負けて花を咲かすことが出来ず何度も植え替えをしたことでした。イベント前には、夜通し鹿の見張りをし苦勞しましたが、ネットを張って対策していただいたことでひと安心しました。

毎年2月から12月までは、ほぼ毎日、車で1時間かけてゆとりすとパークに上がり、植え付け、灌水、除草作業をしています。段々畑ならぬ段々になった急斜面花壇の作業は大変です。

しかし、新鮮な空気と壮大な自然に囲まれ気持ちよく作業しています。作業の大変さにも少し慣れてきました。来場者

に、「花がきれいね」と喜んでいただけるように皆で頑張っています。

5月は、桜草がとてもきれいです。11月は、色とりどりのパンジーが花壇を彩ります。

昨年、遊具も新しくなりました。運が良ければ、早朝には、雲海も見ることが出来ます。是非、お子様連れで遊びに来てください。

その他、香北町のアンパンマンミュージアム前の花壇、カシオワールドオープンやヨコハマタイヤゴルフトーナメントには、花の提供をしています。

これからもお客様に喜んでいただけるようにきれいな花を咲かせます。

第2 香南くろしお園 上村 記功



育成会美術館

スピリットアート展 [入選作品]



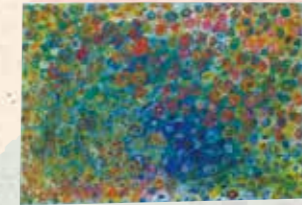
「バイオリン」
ウィッシュ楽団



「にらめっこしましょ! あっぷっぷ!」
岩河 由佳



「私の宝物」
酒井 みなみ



「バラ園」
安岡 加代子



「跳」
安松 広幸



「ゆびやさん」
井浦 美琴



「おんせん」大谷 文也



「おんせん」依光 椋子



「駅前の夕焼け」
加用 喜英



「The俺の器」
上田 泉



「ぼくらの娘」濱田 敏邦



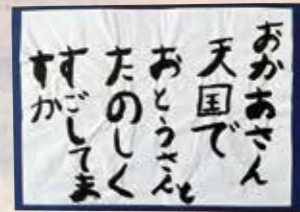
「マイフラワーガーデン」
北村 みき



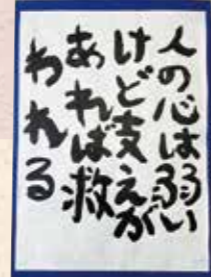
「マイムマイム」
渡邊 亜沙美



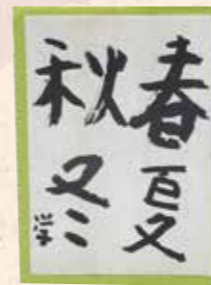
「夏の思い出」森本 華菜



「手紙」
北岡 岩男



「人の心」嶋崎 加代



「春夏秋冬」岡本 学



「俺の洞窟」
田村 清明



「魚」
笹岡 政代



「春風に乗って」
中野 真弓



「前向き恐竜 政ゴン」
笹岡 政代



「私」
松崎 和子



「トゥットゥツ!!」
谷岡 蓮



「よきこい」中村 明日輝



「なにか」野村 風花



「土俵に憧れて」濱田 敏邦



「動物の色」
田中 鈴子



「泡ぶくぶく」
松田 美保



「僕の夢」
川村 次朗



「菊」野島 あすか



「ひめ」濱口 太蔵



「僕の仲間達」
濱口 太蔵



「風」
岩浅 恵美子



「僕の時間」沢田 荘吉

褒状



「まるごと土佐」
地域活動支援センター「南園」



「コロナよっちょれよ」
3寮



「なかよし団」
湯本 タ子



「みの虫のふくろづめ」
つむぎ



「仲良く楽しく元気よく」
HONA



「SDGs からふる キャットハウス」
地域活動支援センター「香美」

ご意見・ご感想

機関紙「わだち轍」に関するご意見・ご感想などございましたら、下記連絡先までお寄せください。いただいた貴重なご意見を今後の機関紙づくりの参考とさせていただきます。.....

社会福祉法人
高知県知的障害者育成会
TEL 088-855-3717
FAX 088-855-6181
Mail : kochi-ikuseikai@iaa.itkeeper.ne.jp

Report

障害者スポーツ大会に参加して



障害者スポーツ大会は利用者さんにとって練習の成果を披露する場であり、同時に新たな交流の場でもあることを実感しました。フライングディスク競技では利用者さんが一生懸命競技に取り組む姿勢が見られ、それぞれの頑張りが形になる瞬間に心が熱くなりました。

選手が移動する際には、他事業所の選手と一緒に移動する先を指さし教えている姿が印象的でした。このような大会は入所施設であるかがみの育成園にとって様々な方との交流ができる貴重な機会です。

ボランティアの学生が元気な声援を

送り、良い雰囲気競技を進めてくれます。投げている選手にも笑顔が見られ、とても素敵な大会だと感じました。

また利用者さんの様子が育成園内外で変わることもあり、新しい発見もあります。緊張から日頃見られないトイレの頻度が変化した事や、利用者さんが段差に対して抱える不安を知ることが出来ました。これらの発見を通じて、利用者さんとより深いコミュニケーションを取り、ニーズに応じていきたいです。そして来年も楽しく参加していきたいと思いました。

